

高品質な日本の中古車を、世界中に届ける 中古自動車輸出のリーディングカンパニー



野村 将希
タレント

special interview



代表取締役
エドワード
タウエ



2022年設立の『イチノミヤモーターズ』は、中古の日本車の輸出を手掛ける企業。インターネットを活用し、世界50カ国以上の顧客と直接取引を行っている。同社を率いるタウエ社長はカメルーン出身で、2010年に来日。日本語学校や車の専門学校を経て自動車業界に飛び込み、二度目の起業で成功を掴んだ。本日はそんな社長のもとをタレントの野村将希氏が訪問し、インタビューを行った。

——まずはタウエ社長の歩みから伺います。ご出身はどこですか。

カメルーン出身です。私は小さいころから右足が不自由で、ものづくりをしたり、分解したりすることが大好きな子どもでした。私が日本に来たのは、2010年のことです。そこから1年余り日本語学校で勉強をして、2011年の4月から自動車の整備士になるために自動車大学校に通って資格を取得しました。ただ足が不自由ということもあって整備士として就職することが難しく、それでも車に関わる仕事があったので、車の販売会社に就職したんです。

——もともとやりたかった仕事とは異なる仕事ですが、やってみてどうでしたか。

私は若いころから強気なほうで、やるうと決めたことは絶対に諦めず、できるまでとことんやるタイプなんです。それもあってアシスタントから入った3カ月後には営業をさせてもらえるようになりました。そしてさらに3カ月後には営業の責任者になることができました。

——未経験からのスタートで、すごいスピード出世ですね。

社内でも異例のことだったようです。こちらは私以外にも様々な国の人が在籍している会社で、多様な言葉が飛び交い、文化もそれぞれ異なっていました。もちろん日本人もいますし、そこをまとめていくのに苦労しました。しかしたくさんのことを学

べた有益な経験になりましたね。2015年からはそちらに勤めながら、友人と事業を立ち上げました。車とは関係のない仕事で、昼は本業、夜は副業というダブルワークをしていました。しかし副業のほうは頓挫してしまい、また本業に専念するように。そして2019年、在庫を持たない車の販売会社に移って2022年まで勤務し、『イチノミヤモーターズ』を設立して現在に至ります。

——最初の起業の失敗を糧に、二度目の独立に踏み切られたと。

そうですね。立ち上げにあたっては、できるだけ初期投資をかけずにスタートしたくて、まずは永住権を取得して家を購入し、その一角をオフィスとしました。そうして1年後、タイミングを見て今の場所に事務所を構えたんです。

——事業内容としては、どういったことをメインにされているのでしょうか。

日本の中古自動車を海外に輸出しています。軽自動車から一般車、大型トラック、小型特殊自動車まで、どのようなタイプの車でもお探しし、需要のある国にお届けします。インターネット販売のため、お客様は実際に商品を見ることができません。そのため、事前によく車と車の状態を見てご説明し、安心してご購入いただけるように努めています。

——真摯な姿勢で信頼を集めておられると。立ち上げから4年目ということですが、

振り返ってみていかがですか。

お客様の9割は外国の方で、アメリカやカナダ、ヨーロッパなど世界50カ国以上の国と地域への販売・輸出実績を誇る企業として成長することができました。これからも高品質な中古自動車を世界中の人々へ届ける中古自動車輸出のリーディングカンパニーとして、人を増やし、事業規模を大きくしていきたいですね。また、今後は大手中古車買い取り専門店のフランチャイズになることも検討しています。



「タウエ社長は、来日からまだ約15年とは思えないほど日本語が堪能で驚きましたよ。相当努力されたので、成長すべくして成長された企業だという印象です。これからの展開も楽しみにしていますよ！」
野村 将希：談

ICHINOMIYA MOTORS
TOGETHER WE GROW
株式会社
イチノミヤモーターズ
千葉県長生郡一宮町一宮 2646-2
URL : <https://www.ichinomiyamotors.com>

校正用原稿